



平成31年 春季特別展

大安禅寺の名宝

宝物に込められた、お殿さまと大安禅寺のものがたり。

- 主催／福井市立郷土歴史博物館
- 会場／企画展示室
- 会期／平成31年3月21日(木)
～5月6日(月)
- 休館日／4月15日(月)

大安禅寺は万治元年(1658)、4代福井藩主松平光通が名僧・大愚宗築を開山に迎えて、越前松平家の永代菩提所として建立されました。江戸時代を通じて大安禅寺には藩主や藩士らが参詣し、書画や道具を寄進しています。また、大安禅寺には福井の文人たちが集いました。特に幕末の歌人橘曙覧は大安禅寺を愛し、住職らと交流した様子が残された和歌などからうかがわれます。このような大安禅寺と福井の人々の交流の中で大安禅寺に贈られた宝物は、大切に記録され、守り継がれて江戸時代の福井の文化を現代に伝えています。

宝物のひとつひとつに込められた当時人々の想いを感じて頂ければ幸いです。

第一章 越前松平家の永代菩提所 大安禅寺の建立



松平光通像 狩野元昭筆 (大安禅寺蔵)

明暦3年(1657)、松平光通は、生涯の師となる臨済宗の名僧大愚宗築に出会い、大愚を開山として迎え、先祖供養のために寺院の建立を願いました。建立の地に選ばれたのが、福井城の北西、九頭竜川の西岸、丹生山地の東端にある田ノ谷でした。万治元年より福井藩の一大事業として始まった大安禅寺の建立から約360年、江戸時代前期に建立された伽藍は現在まで守り伝えられ、重要文化財に指定されています。第1章では、光通と大愚の出会いから大安禅寺の建立について紹介します。



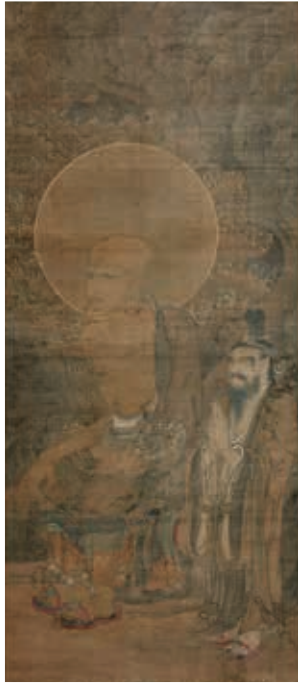
大愚宗築坐像 (大安禅寺蔵)

第2章 大安禅寺の名宝

大安禅寺は大愚の意向を受けながら、光通によって福井藩主越前松平家の永代菩提所にふさわしいしつらえが整えられました。江戸時代を通じて歴代藩主に保護された大安禅寺には、藩主や家中の人々が参詣し、その折々に道具や美術工芸品が寄進されています。これらの宝物が、記録され大切に管理されてきたおかげで、今日も江戸時代における福井の高い文化をうかがうことができます。そこで第2章では、藩主からの寄進品を中心に大安禅寺の名品を紹介します。



重要文化財 羅漢図 (大安禅寺蔵)



福井県指定有形文化財 南蛮船風俗図屏風 (大安禅寺)



龍虎図屏風 狩野永納筆 (大安禅寺) 展示期間：3月21日～4月14日

第3章 文化サロン 大安禅寺



橘曙覧自詠自筆和歌扇面幅 (大安禅寺蔵)

白山を遠くに望み、清流が流れ、山の中腹にある大安禅寺の景観から、大愚は「大安寺十景」を作ったといえます。城下の喧騒から離れた静謐な空間には、藩主や福井の文人らが集い、禅や文学を通じた交遊が行われました。特に、幕末の歌人・国学者の橘曙覧は大安禅寺での住職や知人らとの交遊を和歌に詠み、没後はその奥墓が大安禅寺に作られました。第3章では、大安禅寺を舞台にした文化の営みを、藩主御成りの資料や橘曙覧の和歌から紹介します。

関連イベント

講座「橘曙覧と大安禅寺」 講師：角鹿尚計 (当館館長)

■日時／3月23日(土)14:00～ ※当日受付 要展覧会半券

講演会「大安禅寺 重要文化財の建築物」

講師：吉岡泰英氏 (元一乗谷朝倉氏遺跡資料館長)

■日時／4月6日(土)14:00～ ※当日受付 要展覧会半券

ギャラリートーク (担当学芸員による展示解説)

■日時／平成31年 3月21日(木)、24日(日)、4月7日(日)、21日(日)、5月5日(日)

いずれも14:00～14:30

※※その他の事前申込みが必要な関連行事はチラシおよび当館ホームページをご覧ください。

●次回の展示

企画展示室 夏季特別陳列

「ありがとう平成-博物館コレクションからみる明治から平成-」
平成31年 7月20日(土)～8月25日(日)

「展示解説シート No.120」

平成31年3月21日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489

担当：藤原 千穂 印刷／小川印刷(株)